



公益財団法人

日本AED財団

The AED Foundation of Japan

News Letter vol.8

2020年6月

Contents

1. ご挨拶
2. 第3回 SCHOOL 部会フォーラム（吹田）
 - 第1部 救命教育の公開授業
 - 第2部 シンポジウム
3. EAP (Emergency Action Plan)

1. ご挨拶

「みんなでやる」を教える

公益財団法人 日本AED財団理事 桐淵 博

吹田市立千里丘北小学校で開催されたSchoolフォーラムでは、素晴らしい救命教育の授業を公開していただきました。

5年生の学級担任と養護教諭の二人の先生のチーム・ティーチングでしたが、私が感心したのは、授業の後半に位置付けられたグループ学習です。一連の流れを確認した後、子どもたちは5～6人のグループに分かれ、さらにその中で、役割分担を決めて実習が始まりました。その『役割』とは、[発見者]、[119番通報をする人]、[AEDを持ってくる人]、[応援に来た人]、[チェックする人]ですが、素晴らしいのは、子どもたちがこれらを交代しながら、かつ指摘し合いながら実習を進めたことです。

一般の市民が受講する救命講習は、正しい知識とスキルを個人に正しく伝えることが主眼であり、特に入門段階はあくまで一人ひとりを対象に進められます。それを受けて、学校における救命実習も、一人ひとりに対する成否を想定して組まれることが多いと思います。しかしこの発想は、特に入門期の子どもたちに「できる」か「できない」か、あるいは「得意」か「不得意」かの、背反する自己評価の選択を強いる危険があります。

救命処置を「正しくできる」ことはもちろん大切ですが、「完璧でなくてもやる」ことはそれ以上に重要なことです。「自分は不得意」といったネガティブな自己評価が生まれるのはできるだけ避けなければなりません。さらに、最も

重要なことは、個々人の得意・不得意より「みんなでやる」ことの大切さをしっかり子どもたちに教えることです。この点で、千里丘北小学校の実践は、大変優れたものであると思います。



救命教育は、中・高等学校の新しい学習指導要領で、保健体育科の学習内容が飛躍的に充実しました。AEDを含めた救命処置を、全ての生徒が実習を通じて「身に付ける」ことが目標になったのです。

また、文部科学省の調査(2015年度実績)では、国公立小学校の30%以上で、何らかの形で救命教育が行われています。2020年4月から使用されている新しい小学校保健の教科書でも、救命処置や『ASUKAモデル』を大きく取り上げたものが発行されました。

救命教育を小学校学習指導要領にも位置付け、子どもたちが、小学校で大切さを知り、中学校でできるようになり、高等学校では中心になって動けるようになること、さらに大学までの教育体系を整備すれば、この国には、緊急時に人々が助け合うすてきな社会が到来すると思います。

2. 第3回日本AED財団 SCHOOL 部会フォーラム

「学校での突然死ゼロを目指して」

～いのちの大切さと救命教育への理解を深めるために～

令和2年2月5日、吹田市立千里丘北小学校にて第3回日本AED財団School部会フォーラムが開催されました。平日開催にも関わらず、約120名もの方にご参加いただきました。

開会に当たり、吹田市教育委員会教育長の原田勝様よりご挨拶がありました。

吹田市では、確かな学力・豊かな心・健やかな体のバランスの取れた「総合的人間力の育成」を目指して、平成30年度よりスクールプロジェクト支援事業を開始しました。

千里丘北小学校がこの事業を活用し、講演会や公開授業を通して救命教育の理解に取り組んできました。原田様ご自身が平成7年の阪神大震災で被災されたご経験をお持ちで、「いざという時に備えて準備が必要で、救命教育もその一環であるとし、命の大切さを実感できる教育を、関係団体と協力してこれからも進めていきたい」と、今後の展望をお話されました。



第1部では、千里丘北小学校5年生に対して、学級担任と養護教諭による、救命教育の公開授業が行われました。

授業はPUSHコースのDVDや『あっぱくん』に加え、ホワイトボードを使った授業を展開し、児童たちは実習をとおして胸骨圧迫とAEDの使い方を学びました。

実習後、目の前で誰かが倒れたとき、何ができるかを児童たちで発表しあい、公開授業は終了しました。



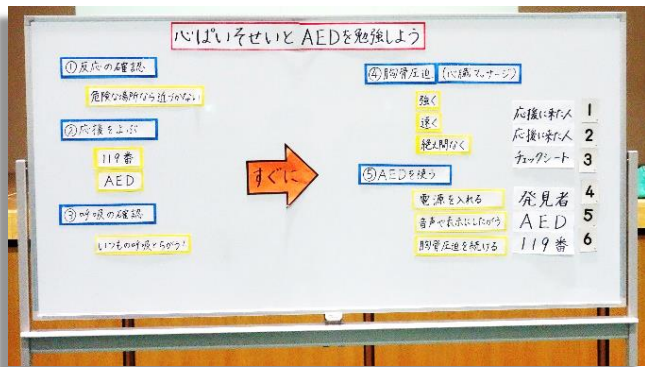
第2部では、シンポジウムが開催されました。

始めに座長の伊藤裕介先生(済生会千里病院千里救命救急センター医師)より、本フォーラムの趣旨の説明とともに、日本AED財団の活動理念や取り組み内容のご紹介もいただきました。

また、同先生より海外での子どもへの救命教育の現状と、吹田市での取り組みについてのご説明がありました。吹田市では平成20年度から学校での救命教育を推進しており、現在では全ての中学校で救命教育を実施し、小学校での救命教育も進めている、と報告されました。

続いて、公開授業を行なった千里丘北小学校の教員から、学校での救命教育を踏まえたご報告がありました。

学校では、防災教育の一環として救命教育に取り組んでおり、すべての学年に対して、担任を中心に発達段階に応じて救命教育を行なっています。DVD教材や副読本を活用して救命教育を行なっております。課題として、“決められた時間内で、発達段階に応じた指導用の教材や指導内容をどうするか”といった「授業づくりをどうするか」が挙げられました。その一方で、児童が命の大切さを学ぶ大切な時間であると実感できたことを強調されました。



次に吹田市での取り組みとして、吹田市教育委員会、吹田市消防本部、株式会社フィリップス・ジャパンよりお話をいただきました。

教育委員会学校教育部指導室の中西多恵子様は、吹田市は昨年度、スクールプロジェクト支援授業にて、救命教育をテーマに取り組む学校を支援し、講演会や公開授業を通じて、学校から市内全体へと発信を行っている、と報告されました。また、「児童に対して自分たちに何ができるかを考えさせることが重要である」と話されました。

吹田市消防本部の藤原雅宏様からは、消防と学校が協力して市内の中学生に対して年間約3,000人に救命教育を行なっているとご報告いただきました。「みんなで救命の連鎖をつなげることで救命率が上がる119番を介して、口頭指導で、消防からもみなさ

んの背中を押していく」と強調されました。

株式会社フィリップス・ジャパンの成川憲司様からは、5%にも満たないAED使用率の現状を踏まえて、誰かが倒れた時に周りの助けを求めることができるための取り組みについてのご報告がありました。



体験講演では、前重奈緒様よりお話をいただきました。前重様は、2004年5月に当時高校3年生だったご子息の前重響さんを、学校のスポーツテスト中の心臓突然死で亡くされました。響さんを亡くされた約1ヶ月後にAEDが一般の人にも使えるようになり、「あのときにAEDが使えていたら、息子は救えたかもしれない、と考えるようになりました」「学校管理下の児童達の突然死は多く起こっており、多くの救える若い命がある」「心肺蘇生とAEDの使い方を広めると同時に、命の大切さを伝えていきたい」と訴えました。

続いて、本財団理事の桐淵博より、さいたま市教育長在任時に起きた、小学校6年生桐田明日香さんの突然死とその後の取り組みについて説明がありました。

倒れた時、「周囲の教員は死戦期呼吸に関する知識がなく、心停止に気づかなかった」「そのため、救命講習を受講していたにも関わらず心肺蘇生は



行われなかった」「AEDが使用されなかった」ことから、その事故を教訓に、明日香さんのご家族と共に『ASUKAモデル』がつくられました。それ以降、学校で救命される事案が格段に増えたことをご報告しました。

また、新学習指導要領にて中学校・高等学校で救命教育が義務化された一方で、小学校では取り扱われなかったことを踏まえ、小学校から救命教育を行うことの重要性を強調し、「大人も子どももみんなで救命に参加することが大事」と強調しました。

最後に、文部科学省総合教育制作局の森本晋也様よりご講演をいただきました。

学校管理下で児童・生徒が亡くなった件数は年間約100件程度（注:最新データでは件数が減少されている可能性があります）で、そのうちの半数程度は突然死であることを説明されました。それを踏まえ、学校保健安全法で、(1)すべての児童生徒に安全に関わる資質・

能力を身につける、(2)学校管理下での死亡事故をゼロにする、ことを目標に国として政策を展開しているとのことでした。「子どもたちに命を守ることを教えることは大事だが、子どもたちの命を守ってあげる組織づくりが重要である」と強調されました。

以上が、吹田市立千里丘北小学校にて行われた「第3回日本AED財団School部会フォーラム」の概要でした。



3. EAP (Emergency Action Plan)

【抜粋版】全体は AED 財団 HP のダウンロードコーナー <https://aedzaidan.jp/download.html> をご覧ください。



傷病者発生時の判断・行動チャート



※これは AED の JIS マークです

公益財団法人 日本AED財団
 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階
 TEL 03-3253-2111 FAX 03-3253-2119
 E-mail: info@aed-zaidan.jp HP: http://aed-zaidan.jp/